

サービスマーケティングを通して学んだこと

活動先：武豊町立わかば保育園
奥田周辺の公園
知的障害児通園施設 つくし学園

1. 自分の成長と気づき

私たちの班は子供の生活や実態を調査するため上記の活動先で活動してきた。まず、わかば保育園で実際に子供たちとかわかってみて気づいたのは、子どもたちと接するときにはテンションをあげて自分もめいっぱい楽しむことが大切だということである。子供たちと一緒にあって、たくさん笑えば子どもたちも心を開いてくれる。子供たちと一緒にあって笑えた時とても幸せな気持ちになれた。つくし学園での活動では自分の知識の少なさに気づけた。先生に子供たちのことを聞いた時、その障害がどんな障害なのか、どんな症状なのか、わからないものがたくさんあった。そのことをきっかけに知的障害についての知識を増やすことができた。また、個人個人ではできることが集団になるとできなくなったり、トラブルが起きてしまう。集団保育の難しさも感じることもできた。保育園と通園施設の違いは、まず通園施設の方はバリアフリーが充実していて、各クラスの先生の数も多い。遊具の安全性も保育園よりさらにしっかりしていた。しかし両方の先生方の子供たちへの愛情や接し方にそれほど違いはなく、子供たちのことを考えて、先生と生徒と一緒にあって楽しむ、学ぶという姿勢は同じだと思った。公園調査では、普段自分たちが何気なく通り過ぎている公園の実態を知ることができた。最近では、子どもたちが公園で遊んでいる姿は減多に見かけなくなった。その背景が少し見えた気がした。

自分の成長としては、まず文章を書く力がついたことだと思う。活動の内容や、報告などで毎週レポートを書いていたことで1年生の時よりも遥かに文章力がアップした。レポートの形式なども覚えることができたし、それだけ書ける内容の濃い活動ができたあかしだと思う。そして、活動前より子供たちとの接し方がうまくなった気がする。初めは子供たちとどう接したらいいのかわからなくて、なかなか積極的に行動することができなかった。しかしサービスマーケティングの活動を通して、少しずつだが、子供たちに対して積極的に関わられるようになったと思う。またこの1年間の活動を通してさらに、障害児教育、保育、子供などの分野について関心を持つことができ、経験や知識を増やせたのが一番の成長だったと思う。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

わかば保育園での活動を通して感じたのは、昔と比べて今は、室内で遊具やおもちゃが増えて室内でも十分に遊ぶことができる。そのことが原因で外に出て遊ぶ子供が減ってきているのではないかと思った。例えばおままごと。私が子供のころは、外で草や花を食べ物に見立てて、石を包丁代りにして料理のまねをしていた。しかし今の子供たちは、部屋の中でプラスチック製の野菜や調理器具を使っておままごとをしている。現代の子供たちが生活する環境は、遊具やおもちゃが工夫されて遊びの環境が整えられすぎているのではないかと思う。昔のように子供たちが自ら遊びを考えたり、遊び道具を作ったりして、工夫する力や、想像力、応用力などが奪われてしまっているのではないかと思った。大げさかもしれないけれど、このように社会が便利になりすぎることで、少子化や学力低下などを招いているのではないかと思った。

つくし学園での活動を通して感じたのは、職員の数をもっと増やせたら、子供たちの活動の場がもっと広がるのではないかということである。私が担当した3歳児クラスの先生

は 2 人。実習に来ていた看護学生や生徒の母親含めて 4 人が指導していた。しかしそれでも、手が行き届かないところがあるようで、子供たちは外では遊んでいなくて、活動場所は教室か遊戯室のどちらかに限られていた。できるのならば、もっと職員を増やして、子供たちの活動の場を広げることができたら…と思った。

3. 最後に

サービラーニングの活動を通して、たくさんの人に出会い、たくさんの、今まで経験したことのない感動や、発見をすることができた。このことは私にとって一生の財産になると思う。また、この活動を通して、さらに特別支援学校教諭になりたいという気持ちが強くなった。1年間で学んだこと、経験してきたことを今後の大学生活や学習に、生かしていけたらいいと思う。

最後に、サービラーニングのクラスで本当に良かったと思う。